

## ▶ 改革に取り組まないまま職員定数を増やすことに強く反対します!

3月議会において職員定数を増員する議案が可決されました。これによって今後市職員は大幅に増員されます。職員数の増員は人件費負担の増大に直結します。子育て環境・高齢者福祉・医療問題など今後さらに多くの予算が必要とされる中、職員の増加によって財政を圧迫させる判断をなぜ実施できるのか理解ができません。そもそも市長は選挙時の最重要公約として行政改革の推進を訴えていました。しかしながら市長就任から3年が経ち、残りの任期があと1年を残すのみとなった今の時点でも、具体的な進捗は全く見えません。**公約を守ろうとする姿勢さえ見せない市長に、この先いったい何を期待すれば良いのでしょうか。**提案された議案への反対を表明するため、私が所属する会派・ぜんしんが述べた反対討論は以下の通りです。

## ■西宮市職員定数条例の一部を改正する条例制定への会派・ぜんしん反対討論■

本議案は、市職員の定数を現在の3,892名から3,946名へと**54名増員する**ものです。職員定数の増加は人件費増大に直結し、本市の財政状況を悪化させる要因となることが危惧されます。

本市の平成27年度決算における経常収支比率は93.8%と規模等が類似する他の自治体と比較して高い水準にあり、**きわめて硬直した財政状況**となっています。また、市が今年8月に作成した「西宮市の決算の概要～平成27年度版～」によると、**市民1人が負担する市職員の人件費は6万8,507円と、類似団体平均の5万7,686円を20%近く上回っています。**財政の一層の硬直化に直結する職員定数の増に、きわめて慎重であるべきなのは言うまでもありません。加えて今後、**生産年齢人口の減少に伴う市税収入の減少、高齢化の進行に伴う医療・福祉・介護等、社会保障関係費用の増大、公共施設・道路・橋・上下水道管等の老朽化対策に必要な費用の増大など、財政状況の一層の悪化につながる懸念される要因が多数存在しています。**そんな中、現時点でも他市に比べて著しく高い水準にある人件費を一層増加させる職員総数の増加には到底賛同できません。

私共は、必要な部署に人員を増強すること自体に、必ずしも反対なわけではありません。だからこそ12月議会では消防職員の定数を426人から522人に96名増員する議案にも賛成しました。しかしながら、それは討論で申し上げたとおり、「今後、最低でも今回消防で増員する以上の職員数を削減すべき」という考えに基づいたものでした。そして人件費を削減すると共に、現在の人員を有効に活用するために、会派として

■市が行う業務を精査し、市が直接行う必要のない業務を外部委託すると共に、直接行うべき業務であっても徹底的な効率化を進めること

■先に述べた取組を進めることで発生する余剰人員を適正に配置し、業務負担の適正化に努めること

■各部署における業務内容や残業時間を精査し、適正な人員配置に努めること

等、具体的な取組を進めるよう求めてきました。しかしながら、こうした取組は遅々として進んでいません。

そもそも**今村市長は、市長選挙において行政改革を重要な項目として取り上げ、「効率的で公正な住民目線の市政運営を実現」と市民に約束しました。**私も含め、この主張に賛同し、共感したからこそ、あなたを応援した方は数多く存在します。ところが市長はマニフェストで「もはや法律上問題のあるレベルなのです」とまで訴えた市職員の給与水準を改革することもないまま、「採用中止」を約束した清掃職員の採用を再開。「人件費を削減すること」を約束したにも関わらず、職員定数を大幅に増加しようとしています。市長は、あれ程声高に主張し、市民と約束したことを、なんだと思っているのでしょうか?「日々成長している」と強弁する、あなたにとっては**市民との約束など、どうでもいいことなのでしょうか?**「行政需要が増大しているから職員定数を増加することが必要!」という主張が通るのであれば、職員数は無限に増大することにさえなりかねません。「3月末で定年退職する再任用職員の多くが週5日の勤務を希望している。希望者は当然、全員5日勤務してもらおう。週5日勤務する再任用職員は定数としてカウントされるので、この需要に応えるためには定数は増やすのが当然!」という話などは、それこそが、あなたが主張していた**「公務員労組との馴れ合い」と受け止められても仕方がないのではないのでしょうか。**

市長が掲げる、市政が目指すべき重要な方向性の一つが「持続可能な文教住宅都市」です。この言葉から連想する内容は人それぞれでしょうが、少なくとも財政の硬直化が進んだ状態で、質の高い文教住宅都市にふさわしい政策を十分、持続的に展開することができるのは私共には思えません。よって**会派・ぜんしんは人件費を増大させ、本市の財政状況を一層、硬直化させることにつながる職員定数の増員には反対します。**以上、反対討論といたします。



市政報告No.7 2017年4月  
無所属 保守系 会派・ぜんしん

街の声を大切にする身近な政治を目指して

西宮市議会議員 ひとし  
はまぐち仁士

## ▶ 市立越木岩幼稚園の存続が決定しました!

市政報告No.4で市立越木岩幼稚園が休園する可能性があることをお伝えしましたが、3月議会において**越木岩幼稚園の休園を見送り、存続させる**方針が報告されました。

本市では3年連続で、4歳児の入園内定者が定員の30人に達しない公立幼稚園は休園することになっています。越木岩幼稚園は3月末時点まで3年連続の定員割れとなっていたことから、休園の可能性が囁かれていました。しかしながら

■越木岩幼稚園のある大社ブロックでは**マンション開発によって就学前児童数が増加**しており、今後も大きなマンション計画が2件予定されている

■同ブロックにある市立夙川幼稚園や市立大社幼稚園は4歳児の受け入れが定員を満たしており**幼稚園に対するニーズが比較的高い**

などの状況から、市は「**年度末の入園内定者だけで**

休園の判断はしない」と結論づけました。

一方で、越木岩幼稚園が存続するからといって幼稚園の入園に関わる全市的課題が解決される訳ではありません。(中略)今後は実態を把握した上で、具体的な対策を検討する必要があります。市は

(注1)  
①**定数以上の児童を私立幼稚園が受け入れた場合に生じる助成金の減額分を市が支援することや、受け入れに余裕のある私立幼稚園から送迎バスを出すなど既存の私立幼稚園によって行える対応**

②**地域の保育需要も勘案した新たな幼保連携型認定こども園の整備**

③**上記の対応をできない場合やできても不十分な場合の市が取るべき対応策**

について順に検討を進めるべきだと考えます。子育て環境の改善に向けて、引き続き取り組みます。

(注1)兵庫県に認可された定員を超えて私立幼稚園が幼児を受け入れた場合、園に支給されている助成金が減額になる。そのため経営の安定に支障をきたすことを懸念している私立幼稚園が存在する。



<プロフィール>1972年6月西宮生まれ。既婚2児の父。市立大社幼稚園、市立苦楽園小学校、市立苦楽園中学校、兵庫県立西宮甲山高等学校卒業。16年間の飲食店経営を経て2015年4月に行われた西宮市議会議員選挙にて1983名からのご信託を頂き初当選。 TEL:090-8167-8136 Mail:h.hamaguchi0602@gmail.com

<http://goo.gl/pEHp1>

<http://h-hamaguchi.com/>

はまぐち仁士

検索



【表紙デザイン】 <タイトル> 『春の越木岩神社』 <作者> 尾崎カズミ  
<プロフィール>大分県生まれ西宮市在住。2005年よりイラストレーターとして関西を中心に活動を始める。2012年より木版画を主な画法に変更し、書籍の装画や文芸誌の表紙などの仕事や、東京・大阪での展覧会に多数参加。<公式HP><http://kazumi-ozaki.petit.cc>

\*表紙デザインは西宮市の文化振興を目的に、西宮ゆかりのアーティストが絵を描いています。

発行者：西宮市議会議員 はまぐち仁士

## ▶ 幼稚園に入園できない子どもたちへの対応を検討すべきです！

一部の地域では幼稚園に入園できなかったという保護者の声を聞いていることから、この問題について実態の調査を行いました。

西宮市の概ね東側では3歳の在家庭児童数が1,588人に対して、公立及び私立幼稚園は合計36施設存在しています。一方で、概ね西側では1,278人に対して18施設と、児童数に対する施設数は東側と比べて西側が圧倒的に少なくなっています。つまり概ね西側の地域においては幼稚園が不足しており、希望しても幼稚園に入園できない児童が多くなっていると思われます。(資料参考)

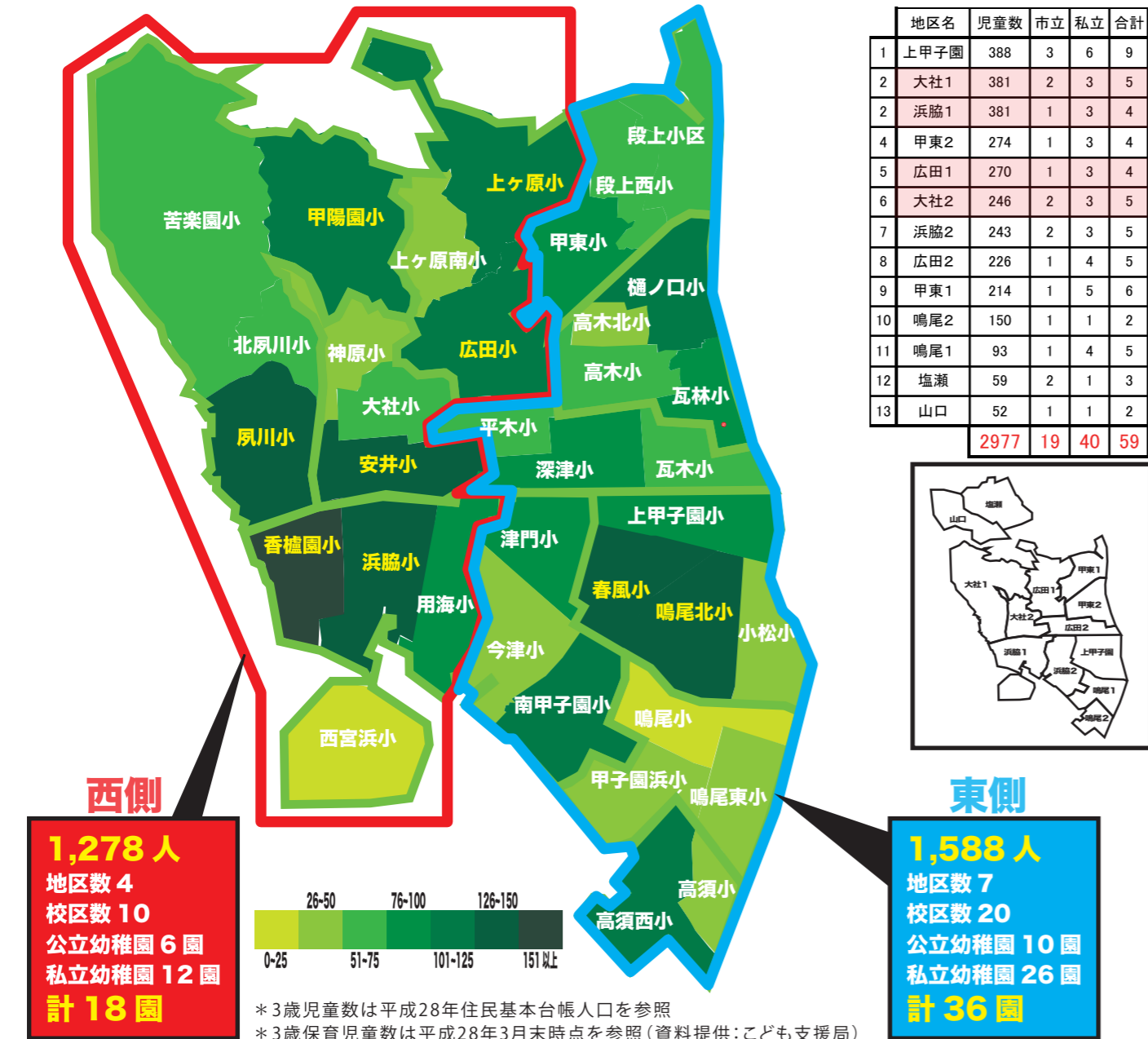
保育所の申し込みは市が窓口となるため、入所出来なかった待機児童を正確に把握できます。一方で、幼稚園の場合、私立幼稚園の申し込み窓口は各園となっています。そのため受け入れた園児総数の

報告はあるものの、幼稚園に入園できなかった児童の実態を把握出来ていません。

幼稚園に対する需要を把握し、適正配置を実現するため、市に保護者を対象としたアンケート調査を早急に行い、私立幼稚園と情報を共有して現状の改善に取り組むよう要望しました。

また10月の時点で入園が決まらなかった保護者は、入園が可能な幼稚園を個別で探さなければならないなど大きな負担となっていることも問題です。この件についても、情報の収集と窓口対応を強化させるよう重ねて要望しました。「子育てするなら西宮」を掲げているにも関わらず、幼稚園に入園できないという状況は早急に改善しなければなりません。今後も問題の解決に向けて取り組んで参ります。

### 【資料】 校別3歳在家庭児童数（3歳児童総数から3歳保育児童数を差し引いた人数）



## ▶ 保護者の皆さんはこどもの発達にどのような関心をお持ちですか？

子育てをしている保護者の中には、こどもの発達に対する不安を抱える方もおられ、こども未来センターには多くの方が相談に訪れています。

一方でこども未来センターでの診察を希望してもおおよそ8ヶ月の待ち状況が発生しており、必要な支援や対応が遅れてしまうという問題が生じていました。(平成27年度時点)

この問題に対して「診察待ちを短縮するための取り組みを進めるべき」という我が会派の提言を受けて、市は医師や言語聴覚士、作業療法士、心理療法士など必要な人員の増員を行いました。このように、受診までに長期に亘る待ち時間が発生するという問題はこども未来センターだけでなく、民間の医療機関でも発生しており、早急な対応が必要です。

診療体制強化の他、こどもの発達について保護者



の関心を高め、正しい理解を進めていくことも重要です。市はこの課題に対して「かおテレビ」という機器を用いた取り組みを進めています。

「かおテレビ」は、大阪大学や浜松医科大学などの共同研究により開発された機器で、人への興味関心など子供の社会性の成長を知るための目安となる「こどもの視線の動き」を測定し、保護者の方々に我が子の社会性の発達に興味・関心を持ってもらうための機器です。所用時間は専門オペレータの解説も含めて10分程度と短く、こどもに対してストレスや不安を感じさせないよう配慮されています。家庭で育児をしている場合、他のこどもとの比較ができない為に発達の変化に気付きにくいこともあり、「かおテレビ」はこどもの発達について、親の関心を高めてくれる取り組みだと感じています。

保護者の中には、子育てをしている中で不安を抱えていても身近に相談できる人が少なく、我が子の発達で気になることがあっても医療機関に足が向かないという方も多くいらっしゃると思います。だからこそ、できるだけ受診しやすい環境を整えるべきです。

こども未来センターはこどもや保護者の気持ちに寄り添いながら支援を行っていく施設です。子育てで気になることがあれば相談してください。

**西宮市立こども未来センター (0798)65-1881**  
 月曜日～金曜日 9:00～19:00 土曜日 9:00～17:00

## ▶ 聴覚に障害のある方にとって手話言語条例の制定は重要です！

近年では手話が言語であるという理念を掲げた条例(以下手話言語条例)を制定する自治体が増えています。手話言語条例を制定した自治体は平成29年2月13日現在で全国9県・56市・8町の計73市町村となっていますが、本市では同条例を制定していません。耳が聞こえないだけでなく、発声も困難な聴覚障害者にとって、手話が言語であることを権利として認めることはとても重要です。

平成29年度西宮市施政方針の中で、市長は「インクルーシブ教育システムの構築」と題して「学校教育においてインクルーシブ教育の構築を目指した特別支援教育の実践を進めるにあたり、当事者の声や専門家の知見を踏まえる必要がある。」と述べています。手話言語条例の制定は、**聴覚障害者**

(注2)人間の多様性を尊重し、障害者が精神的・身体的能力等を最大限発達させ、障害のある者と障害のない者が共存できる仕組み。障害のある者が一般的な教育制度から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」等が必要とされている。

だけでなく共生社会の実現を目指す市民全員にとって重要な課題だと考えます。

今年度西宮市障害福祉推進計画の見直しを行います。手話言語条例に関する今後の方針について尋ねたところ、市は「障害福祉推進計画策定委員会より条例制定すべきとの結論が出された場合には制定する方向で検討する」と回答しました。

手話が言語であるという理念を意味する手話言語条例は、障害福祉推進計画と共にあるべきです。策定委員会の声を重視し、手話言語条例が本市でも必要であると結論付けられた場合は、手話言語条例の制定を進めるよう要望しました。今後もインクルーシブ教育システムの推進に取り組んで参ります。